

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800102		
法人名	有限会社サークルツー		
事業所名	まるにグループホーム		
所在地	静岡県牧之原市勝俣1265-3		
自己評価作成日	令和2年6月17日	評価結果市町村受理日	令和2年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2295800102-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年7月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まるにの理念に基づき、ご利用者様お一人おひとりに笑顔が溢れ、今後のご自分の人生を主人公として暮らせるように、より豊かな生活支援に心掛けています。一人ひとりの想い・希望を大切に、感謝・感動を共有し、ともに安心し、その人らしい生活が送れるように介護支援の努力をしています。
 コロナウィルス感染予防対策の為、外出や面会には規制を設けている。
 ホーム内の消毒、利用者・職員の健康チェック及び出入りする業者関係者のチェックを実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの個性をみつけて「ここがよかった」としてもらえるようにと、法人理念に基づき管理者が繰り返し職員に伝え、ケアサービスを担保している事業所です。法人勤務の長い3分の2くらいが実践できており、勤務の浅い職員も「言葉がかわった」等の成長がみられています。このような基盤があるため、コロナ対策も一致協力できており、厚労省発令を得て2月下旬に面会を自粛、解除後は「消毒」「検温」「情報把握(氏名・県内外の出入り・同居の人の様子・連絡先等)」とともに滞在時間10~15分といったルールを徹底しています。職員にはマスクのほか携帯のハンドジェルも支給され、福利厚生にも余念がありません。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の介護報告をすること 困ったりわからない事は相談する (ノート又は口頭)	利用者の笑顔を求め、また利用者を主人公とできるよう、職員が出勤すると目に入るところに法人理念を掲示しています。また毎日の打ち合わせのほか、全体研修でも管理者から改めて鼓舞しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防対策として、外部との関わりのある行事は見合わせる。	複合施設のメリットとして、コロナ禍にあっても園児とのふれあいが毎日のようにあります。また川崎コミュニティ防災センターが目前にあり、地域の催しものを通して、気軽な立ち話での情報交換が叶っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染予防対策として、外部との関わりのある行事は見合わせる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	内容を職員に伝えている	「運営推進会議は、少人数であれば開催してもよい」と市の許可を得ており、3月は小さな集まりとしました。5月は書面での情報交換とし、7月の開催方法は検討中ですが、いずれにしても継続実施しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	その都度、連絡・相談をしている	身体拘束廃止未実施減算においては県内のどの市町より早期に事業所に注意喚起くださり、新型コロナウイルス感染症予防においても、都度の通知やメールでの連絡がみられ、安心な態勢の行政に護られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実施	「理念にもとづいた対応ができています」との管理者の自負とともに、身体拘束廃止委員会が各棟(事業所毎のサービス種別)代表職員が集まって3ヶ月に1回開催され、事例検討のシートも丁寧に作成されています。	新人に対する研修については記録が明瞭でないため、今後は小さくともプログラムとして形づくり、ファイル化していくことを期待します。また、委員会の議事録は全職員の回覧印があると、なおよいと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護者の声を聞けるように、要望箱を設置	家族には毎月写真入りのお便りをカラー発行しています。コロナではやむなく面会自粛に至り、便りや電話を介して連絡を密にとり、また解除となってからも消毒や検温、滞在時間等のルールを敷き、安心に結ばれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、棟会議実施	管理者会議(各事業所管理者のみ出席)、棟会議、全体会議と報連相の場が豊富です。訪問当日も、併設事業所の職員家族が入院することで体制を整える姿があり、日常の困りごとについて親身なことが覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設経営者実施		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・市内、外の研修に積極的に参加していけるよう補助をしているが、今は研修が自粛となっている ・施設内研修は毎月実施		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・サービス事業所会に参加 (5月末から小規模で実施可能となった) ・勉強会への声掛け		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護者、家族から情報を聞くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その都度声掛けをさせて頂いたり、連絡・相談には随時応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実施している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努力はしている 認知症状により難しい時もある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に話をしたり、面会に来られないお宅には、電話をする(生活必需品、金銭管理等を含めて) 現在は電話連絡を主としている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者には、面会簿に記入して頂き、自由に会って頂いているところだが、コロナ感染予防のため今は自粛していただいている。	遠方に住む娘の声を聞くことができるよう電話のやりとりを支援する等、コロナ禍にあってもなじみの関係継続に努めています。母の日には、花を届けてくれた家族と玄関先でしばしの逢瀬を楽しむ場面もありました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状により、発言が乱暴になったりすることもある為、場所や過ごすメンバー等に留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	有 特養に入所された方の介護者様より、たまに状況報告が入る。介護者様の声を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フロアでの様子観察をしている 本人に聞き取りをする	ごみ捨てや水やりといった生活のなかで体を動かしつつ、「〇〇したい」との意欲を応援することを旨とし、また併設事業所に通う園児とシャボン玉をとばすことで発語を引き出す、心弾む時間をつくっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報は得るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員との情報共有 職員との連絡連携		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	努力している	管理者が計画作成担当者を兼務していましたが、職員に委譲しつつあり、体制整備を意識しています。「その人の長がでるように」を着眼点とし、サービス担当者会議では必要に応じて多職種で取組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	努力している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺への関わりを持つように努力はしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	努力している	家族が受診介助をおこなうため、電話で医師の指導を受け、家族に薬だけ取りに出向いてもらう、といった方法も取りつつ、コロナ禍での医療を実現させています。また、記録は「受診の様子」に残し、共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	努力している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な状況においては、実施している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望は聞いている	利用者8名のうち1名が訪問看護と連携している訪問診療、2名が在宅の頃からのかかりつけ医、5名が看取りに協力くださる医師との構成で、まちまちです。在宅からの医師の継続も尊重しつつ、看取りに親身な協力医への移行も提案しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修実施 資料用意		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自施設での訓練を実施しているのみ	自前に防災セクターがあることは心強く、立地に助けられていますが、前回の外部評価を通じて「やるといいよね」と確認した夜勤の通報訓練は速やかに取組んでおり、フットワークの良さに加え、向上心の高さが滲みま	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実施	利用者の居室は自宅であるとして、本人に「○○(という用事)で入るけどいいですか」とことわることはルールとして慣行されています。羞恥心の度合いは人によって異なるため、本人のやり方に準じて支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実施(危険のリスクのない範囲内で)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険のリスクがないことを前提に実施		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	集団生活において、迷惑とならない範囲内で行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	臨機応変に実施	昼食は併設事業所で調理するため、魚、鶏肉といったメインメニューの情報を得て、朝と夕のバランスを工夫しています。外食は減りましたが、ピザや寿司のテイクアウトで楽しむことは続けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実施	自立が多いものの、「尿失が多い」「パットがまるまりやすい」等細部の支援が必要で、排泄チェック表も全員つけています。手作業に集中してもらうことで、無為にトイレに向かう回数が減った例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に記録、観察		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴時間は決めている (必要に応じて変動あり)	受診などで変更となっても2日以上空くことがないよう、また「入りたい」人が入れるよう、毎日湯をはり、清潔の目安としては1日おきとしています。湯は石鹸垢が浮いたり、汚れた場合は入れ替えています。	現在も3種類の浴剤を使用していますが、お風呂の時間が更に楽しみとなるよう、職員から意見を募ることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲内で実施		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「できる範囲内で実施」の計画であるが、現状はコロナ感染予防の為、外出支援は自粛している。	開設以来、週に1、2回のドライブ外出が日常に溶け込んでいましたが、コロナでままならず、利用者からも「お寿司を食べにいきたい」との声もあがり、5月に2回テイクアウトで外食気分を味わっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分での管理ができない為、施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	努力している	作品づくりは季節が感じられ、また手をつかうことで脳の刺激にもなるため、積極的に取り組んでいます。本年は折り紙でなく和紙染をチョイス、素材を活かして朝顔や紫陽花を描き、利用者からも「色を変えてもいいか」といった声も上がり、意欲が膨らんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	努力している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	努力している こだわりの品は持ってきてもらっている	「自分の部屋だと思ってください」との促しで自宅から色々持ち込む人、ほとんどない人、居室の様子は人それぞれです。認知症が進み、何枚も着込んだりする人には洋服の数を減らすといった工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	実施		